



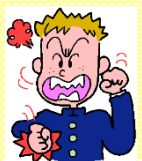
～こんな場面はありませんか？～

- 思い通りにならない時に興奮しやすく、乱暴な言葉や態度が目立つ【事例1】
- 授業中に自分の席を離れたり、教室を出て行ったりしてしまう【事例2】



問題行動等の背景には、学校生活への困り感や不安感があります。起こった事象を指導するだけでなく、**なぜそのような行動をするのかを分析**し、その子供にあった**具体的な支援をする**ことが大切です。

事例1 思い通りにならないと興奮しやすい子供への支援



周りの友達からいろいろ言われて嫌だ！
気持ちをどう伝えていいかわからない！
みんな自分のことを分かってくれない！



自分の感情を上手く表現できなくて困っている状態ということを理解して対応することが大切です。

心の状態を色や数値に表すなど、視覚的なものを利用することで、子供が自分の現状を整理しやすくなります。

支援のポイント

- ①興奮している時は見守り、落ち着いてから話しかける。
※周囲からの刺激によって一層興奮しないように、別室で落ち着かせる。
- ②何に対して感情的になっているのか等、子供の気持ちをしっかり聞く。
※普段より穏やかな口調を心がけ、「どうやってほしかったのか」等を丁寧に聞く。
- ③落ち着いた時に、子供の気持ちに寄り添いながら、「人を殴る、ものを壊すことはいけないことである。」といったことや興奮した時にどう対応すればよかったか等を具体的に示す。

事例2 授業中の離席や教室から飛び出す子供への支援



周りからの音がうるさくて嫌だ！
先生がたくさんのことを大声で言うから聞きたくない！



原因には、多動性・衝動性の他に、聴覚過敏なども考えられます。

いつ・どんな場面で・何をしたときにこのような行動をとるのか、他の子供や教員とのやり取り等も含めて記録をとり、要因を分析することが大切です

支援のポイント

- ①教室内の騒音や声の大きさに気をつけて聴覚刺激を少なくする。
※机やイスの足にテニスボール等の防音材をつける。
※学級全体に対して、適切な声の大きさを指導する。
- ②教員の話し方や声の大きさ等を工夫する。
※緩急のある話し方をしたり、短い言葉で伝えたりする。
※キーワードになる言葉をボード等を書いて視覚化して指示する。

※学校生活に困り感を持っている子供や、学校生活に不安を感じている子供は、通常学級にも多くいます。
学校全体で情報共有し、その子供にあった支援をすべての教員で取り組むことが大切です。

～特別支援教育ほっと通信～



R2.4月号



R2.10月号